

学費値上げ決定が

至和泉の学友諸君、去る15日理事会は一方的に、学生に授業料値上げの決定を提出して来た。この授業料問題は諸君が充分熟知の様に見えるが、日本の大学の最大の矛盾としてあり、その典型的なものとして早大斗争があることは理事会のみなさん学校関係者は充分知つてゐるはずである。

さて現在の明治大学に於てはその矛盾の解決をしようとする姿勢すら学校側には見えず、たゞ単に他大等より遅れて値上げするのだから云々... という形で、この授業料値上げの本筋をインベイン現在の段階に於ても完全に学生を無視している。かゝる早大斗争を何ぞ教訓として受けとつたのか？、彼等のこつこつした強权的な一方的な決定の仕方からいへば、教育者の立場としてはな

らば、教育者としての責任を放棄してゐる。彼等は誰の誰にも明らかである。彼等は早大斗争に於て教訓として如何に学生を取扱つてゐる。早大斗争として大学のペースに巻き込まれたい。そつこつとした技術的な面を学んだのであり、そこには教育の自由の場としての側面は、いかに保つて置きたいのである。

我々は早大斗争に於ては、教員だけを捉へては重大な誤りを犯すであろう。その本質を具体的に明確に把握しなければならぬ。そして自分自身の問題として、この授業料値上げをどう受け止めるか。自分でどう受け止めるか。又一体大学と学生に於てはどうか。現在に於てはどうか。現在に於てはどうか。現在に於てはどうか。

現在、我々をとりまく状況は、真に大衆社会的なそれを呈している。そして我々はどこかその中に

取らう！ 交際団大622

埋没しなからう。この事実が支配に... 又、大学の企業運に於ては彼らの論理を貫徹するものに非常に有利なものとなつてゐる。だが、我明治大学に於ては、学友諸君の奮闘の流動化が激しくなつてゐる。それは明らかで、早大斗争にその結果の発端があつたのであり、その限りでは早大斗争は大いに評価されるべきではなからうか。では明治大学に於ては流動化の具体的な証明は何なのか。それは自然発生的なクラス討論が起つてゐることであらう。我々は、このクラス討論を組織的に教会的に行ふ必要があり、その準備を早大斗争開始せねばならぬ。

我々は早大斗争の休む死活的な状態を仰いでゐる。敗北を仰いでゐる。だが我々が早大斗争を明確に我々自身の立場として、早大斗争を勝利の展望が眼の前に開けて来る。現在開けてゐる。我々は授業料値上げには絶対反対であり、反対は受け止むべきでない。なぜならこの学と値上げが大学のあらゆる矛盾の集中的な表現であり、具体的にはマスプロ教育のあり方は産学協同路線の方向の追求の発端である。これは明確であり、我々学生を第一として、早大斗争を第一として、我々の人間として、位置づけようとするものがある。早大に於てはこの様な非人間的な扱いに對する、学友の人間としての主張、人間としての叫びであつたことは明確である。学友諸君、自らの大学とは何なりだろうか。それは理事者達によつて作つて貰つたものであろうか。それは我々自身のまじりかたの大学の

矛盾を解決しない限り、我々の間に、
学生公中執、法商政全
聖宮文各学部学生会

話し合ひを、

話し合ひを、

話し合ひを、

話し合ひを、

話し合ひを、

話し合ひを、

話し合ひを、

理事者は学生と話し合ひを、